投

特253
548

組合叢書第二十八輯

農村婦人の活動を視る

産業組合中央會

特253
548

農村婦人の活動を視る

産業組合中央會編

發行者寄贈本

目次

一、はしがき……（一）
一、稲瀬産業組合婦人聯盟（岩手縣江刺郡）……（六）
一、中鹽田産業組合婦人會（長野縣小縣郡）……（一三）
一、宇賀産業組合婦人會（廣島縣世羅郡）……（一八）
一、佐々並村婦人會（山口縣阿武郡）……（二四）
一、生福産業組合婦人會（鹿兒島縣日置郡）……（三〇）
一、高尾野産業組合主婦會（鹿兒島縣出水郡）……（三六）
一、むすび……（四一）

農林省蔵書 本

農村婦人の活動を視る

はしがき

農村婦人の種々な組織の中で、産業組合婦人團體は次第に有力なものとなつて來た。殊に産業組合が五ヶ年計畫を樹て、その達成が當面の大切な仕事とされてから、この傾向は特に著しくなつた。そこで昭和九年十月、本會は各支會と協力して、組合婦人組織の調査を行つたのである。

それによると、産業組合の婦人團體總數は八四九。その中最も多いのは鹿兒島の二一九であり、全體の二五%、次は長野の一五七で一八%、第三は、福岡の九〇で、一一%以上で全體の五割餘を占めてゐる。次に多いのは佐賀、京都

廣島であり、全體の一八%を占めてゐた。

之等の中、最も早く創立されたのは明治卅六年であつて、それは鹿兒島に一つと愛知に一つとであつたが、之が昭和に入るや急に增加し、更に五ヶ年計畫案が樹てられた昭和七年は最も多く、その設立數二六六に及び、又昭和八年は一四六であり、同じく九年の設立數は一〇六であつた。

又、この會員總數は二十四萬二千四百五十三名であつて、この中一番多いのは鹿兒島縣で八萬五百八十八名、全體の三三%に當り、次は佐賀の三萬八百七十名、全體の一三%、福岡の二萬七千六百十三名の一一%といふ順序であり、他は何れも一割以下であつた。

數字の上から見て、之を產業組合全體の狀勢と比べれば成程、まだ〳〵見るべき存在とは云ひ難いにしても、實質的には相當の活動を行つてゐるのである。では個々の婦人團體がどんな組織を持ち、どんな勢力でどんな活動をしてゐるか。具體的なこういふ調査が各方面から極めて重要視されながら、今迄行はれなかつた。今後農村問題が益々複雜となるにつれ、婦人組織の問題もゆるがせに出來ず、從つて之が對策については、愼重な考慮が拂はれねばならないであらう。

又農村婦人の平生の仕事は、非常に廣い範圍に亘つて居る。農耕は勿論のこと、養蠶は技術的な仕事である關係から、それは殆んど婦人の仕事となつてゐる。その他色々な農閑期の副業がある。之等は男子と何等ちがはない勞働であるが、一方、婦人の特別な仕事となつてゐる炊事から家事一切、縫物、育兒、洗濯等澤山の家事勞働が重つて居る。從つてそこには婦人だけが知る忙しさや婦人だけが受ける色々の苦しみがある。中でも婦人が一家の主婦である場合、家の中の仕事はだん〳〵多くなるばかりである。一方、その爲めに田圃や畑の仕事は減るどころか、むしろ一家の柱となつて働かなければならない。更に又

農村婦人が母となつた場合には、その重荷は一層加はるばかりである。母を追つて泣き叫ぶ子供を後にひきつれながら、畑へと急ぐ婦人の姿、又は田圃の畦の休息にも尙子供に乳房を含ませる母の姿が見られる。

實際は、男子に比して何等劣つてゐない働きを續けて來、尙其の上に家庭の主婦として、又母としての務めを果してゐる。それでゐながら、充分な慰めの機會も娯樂の時間も與へられてゐない。全くどの方面に於ても惠まれず、又おくれてゐる。經濟的には勿論のこと、社會的にも文化的にも全くとり殘されて來た。それは單に婦人自身の責任にあるのではなくして、長い歷史がそれをやむなくせしめて來たといふ事が出來よう。

だが、それをこのまゝにしておいてはならない。あらゆる點で農村婦人の立場を有利にし向上させることに努力しなければならないであらう。しかもそれは農村婦人が共同の力に依つてきり開いて行くことが一番大切なことである。

そういふために、こゝに掲げた各地婦人會の實際的活動を見ていたゞきたい。

稻瀨産業組合婦人聯盟（岩手縣江刺郡）

東北線、金ケ崎驛から約一里半程入つた地點に、かの有名な江刺米の主産地たる稻瀨村がある。戸數八二七戸、人口五、一八三人、稻瀨の名が示す通り、田圃の續いた村である。

――婦人會の設立と組織――

役場の中に事務室を持つ本村の産業組合は、明治四十一年創立されてゐるのではあるが、その經營は餘り振はなかつた。所が昭和六年の岩手縣の三大銀行破綻により縣下の金融は全く鎖され、之に影響された縣下の經濟狀勢は一家の經濟にも強く反映し、其の窮狀を深めた。この事は産業組合更生のよき機會となり、從つてその革新運動が盛んとなり、從來の理事者は更新され、事業は進展した。この間婦人の産業組合運動に對する熱意が昂まり、昭和八年婦人會を組織し次第にその活動が盛んとなり各方面に亘つて効績が認められて來た。昭和十年に入るや、組合も次第に發展して來たので、婦人會の名稱も産業組合婦人聯盟と改めて茲に全村を網羅した結成を見るに至つた。

尤も本村にも他の婦人會がある。一つは聯合婦人會であつて之も昭和八年に組織され、專ら精神修養方面を分擔してゐる。又火防婦人會が昭和四年に組織されてゐるが、之等は何れもその構成員が同一人であり、會長も同じ人である。尙この他に女子青年團の組織もあるが、之は未婚の婦人によつて作られてゐる。

部落から部落へ行くのに小さな山越えをしなければならない程、細長く廣いこの村の婦人會は、部落毎に組織されてゐる。各部落に作られてゐる支部數は

全部で十支部であつて、各支部には支部長一名、幹事七、八名宛あり、全盟友數は約五〇〇名である。各盟友は一人に就き會費十錢宛收める事となつてゐる。之に對し稻瀨村は村費補助三〇圓、産業組合は、三五圓を支出して之を後援してゐる。部落的に組織されてゐるだけにその事業も部落毎に活潑であるがその主なものを記して見る。

――事業の大要――

雜貨配給＝十支部に雜貨配給所を指定し、其の取扱高は最近五ヶ年間に二千五百圓に達した。殊に石鹼とマッチとは絶對利用を申合せた關係上、需用者激增し、且つ品質の優良なことが認められ、今後益々供給高を增す傾向にある。この配給の手數料を會費としたといふ支部もある。

會費捻出の方法＝この點、他地方と趣きを異にし、積極的な各自の勞働に依り捻

出方法を講じてゐる。或支部は道路工事の砂利運びをしてゐる。朝七時から夕方六時迄、一二〇戸の主婦が半分宛に分れて、縣の匡救事業に從事し、砂利運び賃三十五錢を得た。この中二十錢は支部の基本財産とした。又或支部は砂利を山から堀り出し、二箱十錢で賣り、それを會費にあてたといふ。更に一支部は一枚の畠をかり、白菜を共同耕作し、それを賣つて會費の捻出を計つた。

婦人大會の開催＝五月初旬總會と兼ねて開催し、大變盛況であるといふ。總會閉會後各支部の代表者に依り、鄕土藝術の演出等があり、娛樂の機會に乏しい農村婦人を愉しませてゐる。

防火並に衛生＝毎年春秋二回の清潔法檢査には、幹部は戸毎に檢閲をなすと同時に、近隣相互に檢査をする。又婦人が防火に留意し合ふ結果、火災が殆ど無いとのことである。

臺所改善＝いろりの傍に臺を作るとか、流しの棚、水桶の置場所等を研究し合

つて工夫して行く。

副業奬勵＝從來の戸毎作業より共同作業に轉換し、ホームスパン、藁工品等の作業は共同作業場の利用により、生産高は增大し、藁工品中俵裝材料とか、まぶし等は村内の需要を充たすばかりでなく、産業組合の斡旋により他方面に共同販賣をしてゐる。

各種講習會の開催＝染物、洗濯、漬物、料理、ホームスパンの講習會並に講演會

先進地の視察＝各部落にて毎年視察地を決定して行つてゐる。

圖書の回覽＝印刷物は毎年隨時適切なものを配付し、又學校に設備されてゐる、稻瀨圖書館と連絡をとり、農閑期圖書の回覽をしてゐる。

農繁託兒所＝一支部に於て農繁託兒所の經營をしてゐる。大體六月七八日頃から十日間位開設し、學校の先生、婦人會の幹事等五六人が保姆代りとなり、約八十五名内外の子供をあづかつてゐるといふ。

女子青年團＝現在百名程の團員を持つてゐるが講習會、敬老會等を行つて婦人會と具體的な聯絡をとつてゐる。

畠堀り田の草取り等の農業方面で、實によく働く本村婦人は同時に又養蠶業を一手にひき受け、農耕と養蠶と一緒の場合は實に多忙であるといふ。その他あみすき、俵あみ等の副業を行ふ。

苦勞が多いこの村の婦人は、それだけに積極的な活動力を持ち、婦人團體が出來てからは各方面に婦人の關心が深まり、特に教育方面に於てそれは著しく目立つといふ。

中鹽田産業組合婦人會　（長野縣小縣郡）

長野縣の商業都市上田から別所溫泉行きの電車で、約二十分程行くと中鹽田村に着く。小學校と並んだコンクリートの二階建てが目立つ。之は大正八年十二月設立認可を得、大正九年三月より事業を開始して以來、十五年を經た中鹽田信販購利組合の堂々たる姿である。

戸數九六六戸、人口四、八四二人といふこの村の主業は、養蠶であり、米麥作は、從業といふ經濟事情ですゝんで來たが、大正九年三月の財界激變の餘波は、この村にも強くひゞいた。次で昭和五年十一月、地方の有力銀行破綻に端を發した連續的な經濟恐慌は、更に村の財政經濟、並に組合事業に強い影響を及ぼした。殊に繭絲價の激落は農家一般の經濟生活に反映したが、一方婦人の

經濟的自覺を促す機會ともなつた。

――婦人會の設立と組織――

この村には明治三十二、三年頃より中鹽田婦人會が作られてあり、十六歳以上の婦人は全部この會員であつた。又昭和四年設立の軍人後援婦人團があるが之は婦人會の有志によつて作られてゐる、又同年産業組合の後援により、産業組合主婦會が創設された結果、現在本村には三つの婦人團體がある。併し之等は名稱こそちがふが、その構成員は大體同じである。從つて三月六日の主婦會總會には以上三團體の合同總會が行はれ、各團體の會長も同一人であつて、現在は小池こよし氏がこの任に當つてゐる。

――事業の大要――

以下同主婦會の主な事業を紹介して見る。

主婦會報、講習錄の發行＝主婦會報は昭和四年十一月發刊されてより、毎年一回發行され、主として前記三婦人會の年次報告を掲載してゐる。又、種々な講習會の際、使用した講習錄の發行をしてゐる。例へば農産物加工講習會要錄、毛絲編物講習會要錄、味噌製造講習會、染色、パン製造講習要錄等である。

諸講習會、講演會、購買品に關する座談會＝農産物加工講習會は、主として漬物の講習である、又味噌仕入、ふとん綿作り法講習、機織の講習、染色並に絞染、又は編物、眞綿の講習會等が盛んに行はれてゐる。

購買品の注文取纏め＝月に三四回行つてゐる。

眞綿製造共同作業＝之は土地柄なか〳〵大切な事業の一つである。毎年十月上旬、各部落毎に開催され、部落の中心地にある集會所とか、個人の蠶室等を借り受けて之を作業場とし、組合にて講師三名を聘して巡回指導をなし、製品

は組合に集荷し、規格の統一をなす。この場合に必要な薪炭費等は玉繭五升に就き三匁の眞綿（約一枚）を以て之にあてる事としてゐる。

織物副業組合を設立＝この附近は上田紬の有名な産地である。併しそれも、各家にて一反一反異つた手織物であつては、販賣が極めて困難なる爲め、主婦が中心となつて、この副業組合を設立し、材料及製品販賣を有利にする爲め、努力をしつゝある。現在二百名位參加してゐる。

小學女兒童の服裝改良統一＝昭和七年十二月二十日の記念運動會より一齊に改良された。

勝手元消費調査＝一ケ年間の調査表を組合にて作り、主婦會の幹部百人位に托して統計をとる。

小學兒童に對する援助＝春秋二期の清潔施行當時、各自の屑物を集めて共同販賣し、その金を學校に寄附してゐる。一ケ年その金額四十圓位であり、その使途

は兒童への榮養給食の補助、運動會の際の副食物の補助等に當てられてゐる。又各學校にて使用する雜巾を作り、之を賣つた金を積立てゝおいて學校へすべり臺を寄附した。

臺所改善＝燃料と時間の節約を希望し、餘熱の利用等を申合せた結果、燃料は半分から三分の二位で間に合ふ樣になつた。

その他の生活改善＝時間の勵行は完全に行はれてゐる。結婚の費用も大體道具は簞笥一本と限定されてゐるので、餘程樂になつたようだ。又病氣見舞、出產見舞等は部落でまとめて贈る事にしてゐる。

織物展覽會＝各自手織の製品を集め、毎年一回開催し、一般に織物に對する知識、技術の向上を計つてゐる。尙之と關聯して不用品の交換も行つてゐる。

將來の計畫＝以上が大體本村產業組合主婦會の仕事の主なものであるが、尙將來の計畫としては、上田つむぎの販路を擴張すること等が擧げられてゐる。

更に又、本村經濟更生計畫の中へ主婦會から一つの注文が出たといふ。それはこの附近に澤山ある溫泉へ、一日解放されたい希望であるとの事だつた。

農村婦人に必要な託兒所の施設は、婦人會長個人の經營によつて昭和六年から始められてゐるとの事だつたが、かうした方面に、主婦會の力が向けられて行かれたらよからうと思つた。組合內部に設けられたパン燒所では、この村でとれた小麥粉がおいしいパンやお菓子になつてゐた。

宇賀産業組合婦人會　（廣島縣世羅郡）

庄原線を吉舍驛で降り、中國山脈の山裾を車にゆられて上ること約四十分、四月といふにこの地方の春はおそい。こゝ廣定村は、海拔一五八〇尺、丘と丘との間に人家の點在する戸數四六〇戸、耕作反別平均七反といふ山村である。米麥、木材、木炭の他近年松茸、百合根等の生産によつて生活をたてゝゐる。

昭和七年廣島縣第一期の經濟更生指定村となる。本村には、小童、宇賀の二部落があり、各部落に部落單位の産業組合がある。

保證責任宇賀産業組合は、明治四十四年八月の創立で、四種兼營であるが現在利用事業は行つてゐない。組合員二一七名で殆んど全戸加入である。貯金八萬四千八百五十三圓、貸付金六萬四千二百七十一圓である。

――婦人會の設立と組織――

本村には明治四十四年四月宇賀部落を區域とする婦人會が生れ、昭和七年小童部落婦人會と合併して、廣定村婦人會宇賀支部となつたが、事實は獨立活動の狀態であつた。昭和九年七月宇賀産業婦人會と改稱して、宇賀産業組合に所屬し、農村更生、組合運動に積極的に働きかけるやうになつたのである。

他に佛敎、愛國の二婦人會があるが何れも名のみで、獨り、産業婦人會のみが活動してゐる有樣である。

現在會員數二一四名、殆んど既婚の婦人によつて組織されてゐる。最も活動する婦人の年齡は四十歳から五十歳位で、多く中流以上の家庭の婦人であり、幾日も續いての會合にもよく出席し、獻身的な働きをみせてゐる。

會長は小學校長で、副會長には村醫の夫人がなつてゐる。理事二名と各

支部より選出された評議員四十名は婦人であるが、幹事二名は組合の理事である。年一回總會を開く。

――事業の大要――

共同作業＝種々の活動は主として支部を中心とし、二十の支部は毎月一回から三回、部落親睦會を開いて、會長の講話をきゝながら共同作業にいそしむのである。この共同作業による製品（蔬菜、繩、米俵、スリッパ、枕等）は組合を通じて共同販賣し、賣上高を自力更生貯金とし、或ひは臺所改善費にあてゝゐる。

貯金＝毎月十錢以上の申合せ貯金は五ヶ年据置きで現在は第二回目である。又支部によつてはお米の握貯金をしてゐる。貯金は評議員が集金して毎月組合に持つて來るのである。

生活改善＝生活改善では昨年春花嫁の式服を婦人會で購入し、無料で利用してゐる。臺所は臺所改善購を設け、或ひは共同作業貯金によつて、三十圓から六十圓位で改善されつゝある。便所の改善は未だ着手されてゐないが、村民の九十%は蛔蟲保卵者なので、これを豫防するため、野壺を各戸に備へ、よく腐蝕したものを肥料にしてゐる。

丘を上り、丘を下つては働くこの村には、早くから雪袴の着用が行はれてゐる。婦人會の會服は一圓五、六十錢程度のものを制定してゐる。

敬老會＝年一回の敬老會は男女青年團と共同で行ひ、八十歳以上の老人を招待する。婦人會は菓子折詰を自製し、青年團より眞綿、杖などの記念品を贈つてゐる。娯樂とてない農村としては、この日は村人の待望の日であり、安息の日でもある。青年團員協力の素人劇に、踊りに歌に一年間の勞苦も忘れてしまふといふ。

奉仕事業＝この地方は積雪が多く、寒氣が嚴しいので、冬期三ヶ月間に亘つて婦人會員は毎日三名宛交代で學校に出かけ、兒童にあたゝかい味噌汁を給與してゐる。味噌の原料は各家庭よりもちより、生徒が製造し、汁の實はその日の當番會員が寄附をする。その結果兒童の風引きの率が少くなつたそうである。又この日を學校の參觀日とし、吾兒の教育について先生の指導をうけることにしてゐる。本年二月の總選擧には、歩行困難な有權者を自動車で送迎し、湯茶履物の世話をして村人の感謝を受けたといふ。

共同購入＝食料品、雜貨は組合を通じて共同購入し、注文、配給など全部評議員の手で行ひ、昭和十年度は二六九圓であつた。

諸講習會＝又榮養料理、醬油、味噌、菓子、ウドン、瓶詰、漬物等の講習を開いて副食物に乏しい冬期に備へてゐる。この村は家計簿の記帳は殆んど婦人の手で行はれてゐる。

古物賣買交換會＝次に大きな事業の一として古物賣買交換會がある。衣類道具類等八十點も出品され毎年好成績をあげてゐる。又ボロ、髮毛、新聞雜誌等の廢物共同販賣を行つてゐるが、物によつては四、五倍の高價にさへ賣上げてゐる。

經費＝會の經費は年額十五圓の村補助、約二十圓程度の組合補助の他は、會自體の事業によつて資金を生み出してゐる。卽ち各會員が必ず一點以上を持ちよることゝし、年二回廢物利用展覽會を開き、賣上高全部を資金にあてゝゐる。一回の賣上高は十三圓内外に及ぶといふ。又小學校の運動會には各會員が白米を持ち寄つて壽司をつくり、その賣上をも資金にしてゐる。

字賀部落婦人のかうした活動は、小童部落の婦人達にも働きかけられ、小童産業組合婦人會設立の日も遠くないとさく。

佐々並村婦人會　（山口縣阿武郡）

山口市より萩に通ふ省營バスで一時間、いくつかの山を越えたところに縣下第四位の佐々並村がある。村の中心地は一見町の感じであるが、山林九、平地一割といふ四圍山岳に蔽はれた高原の純農村である。面積約七千五百町歩、戸數四三〇戸、人口二千三百人、米、木炭、肥牛、用材等を産する。

昭和八年經濟更生計畫をたて、九年度より實施したのであるが、第一年度末には、一戸當り三十五圓の赤字が、八十五圓の黒字を示してゐる。十一年三月には村營の診療所を設け、保健、醫料費の輕減をはかつてゐる。

村一圓を區域とする保證責任佐々並村信購販利組合は、明治四十一年五月の設立で、組合員四七三名、始んど全戸加入であり、公職にある村外人も全部加

入の表彰組合である。貯金四九萬圓を有してゐる。

――婦人會の設立と組織――

山口縣支會としては、特に産業組合婦人會を設立することをさけ、既設の町村婦人會をして組合運動に參加させる方針をとつて來たのであるが、佐々並村婦人會も亦組合運動を理解して、積極的な働きをみせてゐる。他に愛國婦人會があるが、取立てる程の活動もない。昭和九年創立の國防婦人會は、村婦人會員と同一人であつて、軍事關係以外の場合の活動は、全部村婦人會の名に於いて行はれる。

本村には大正八年に、婦人部、處女部から成るときわ會が生れ、後、昭和八年になつて婦人部のみが獨立して佐々並村婦人會となつた。その目的に精神修養、社會奉仕、知識の向上、生活改善の四項目をあげてゐる。

現在會員數三四七名、既婚婦人を以つて組織し、三十歳から五十歳の婦人が多い。會長に村長夫人、副會長に組合長夫人、幹事四名は小學校の女先生である。十一支部に支部長副支部長各一名をおき、會計係一名がある。事務所を小學校におく。

――事業の大要――

諸會合＝年一回の總會は毎年四月に開く。幹部會は年三回以上開き、事業の打合せ、研究などをなす。各支部は月例會を開いて講話、染物、編物、農事の講習、研究會などを行ふ。

共同作業＝又支部によつては、道普請、砂利の採取、杉の中刈などの共同作業によつて、支部の資金を生み出してゐるところもある。これら支部會には、必ず組合側から係員が出席して、常に聯絡をとつてゐる。

會費＝會費は本部費年額十錢、支部費として月額三錢をとる他、催物の場合には隨時に出し合つてゐる。その他年額二十圓の村補助、催物の場合の組合補助がある。

組合援助＝特に組合關係にあるものでは、食料品その他の共同購入、家の光の普及がある。特に支部の月例會には輪讀會を開いて記事の研究をするといふ。又組合家庭藥の配給、ダルマ貯金、勤勞節約による臺所貯金も實行してゐる。毎年三月六日には家の光會と共同で母の會を開いてゐる。

生活改善＝村の經濟更生計劃中、生活改善、衛生に關する事項は婦人會の擔當であつて、冠婚葬祭の改善は徹底的なものではないが、計劃通り實行されつゝある。臺所、竈の改善は賴母子講を設けて、十圓から三十圓位をかけ、現在村の三四割までは實施されてゐる。時間の勵行、家計簿の記張も實行され、會服、作業服も統一されてゐる。自給自足の勵行では、從來南瓜、牛蒡、胡瓜、

茄子等を購入してゐたが、栽培法を研究した結果現在では自給するやうになつた。又紫雲英種子二十五石を他村より購入してゐたが、昨今は需要を充して尙余りあるといふ。

其の他＝又毎月の衞生デーには下水の掃除、寢具の日光消毒、蠅の驅除を行ひ赤痢予防藥の服用、寄生虫驅除の爲の檢便、服藥、健康診斷等は殆んど婦人會員によつて行はれてゐる。

この婦人會員は協同互助の精神にとみ、貧困者、罹災者の救助、出征軍人及入營者家族の慰問などを行つてゐるが、昭和九年度に草取、田植などの家業を手傳つた件數が四十余件に及んでゐる。敬老會は年一回婦人會の主催で七十歳以上の老人を招待し、延壽祭を行ふと言ふ。

奉仕事業としては、年二回の道路修理工事、兒童愛護デーに餅、饅頭の寄贈春秋二季小學校に雜巾、竹帚、ハタキ、上草履を寄贈し、兒童の味噌汁用とし

て、味噌百貫を學校に寄贈してゐるが、中でも農繁期託兒所の開設は特記すべき事業であらう。

託兒所＝託兒所は毎年婦人會の主催で、五月末から六月にかけての一週間を小學校に開設し、四歳から七歳までの小兒を六十余名預るといふ。朝七時から夜六時までの間、食事を二回、又十時と三時にはお八ツを與へる。縣から十三圓の補助があり、學校の先生、女子青年の協力があるとは言へ、婦人會員幹部の犧牲的な活動に俟つところ大なるものがある。

近年この佐々並村は模範村の聲高く、視察者相次ぎ、更生計劃も着々として實現しつゝあるが、その蔭には、婦人會員の醒ましい活動のあることを、忘れてはならない。

生福産業組合婦人會（鹿兒島縣日置郡）

鹿兒島縣日置郡串木野町は面積八方里、漁村、山村、商家、鑛戸を含んで、戸數五千五百五十六戸、人口二萬四千八百七十六人に及び、其の中農業に從事するもの二千五百七十九戸、一萬二千七百四十八人であるが、こゝに紹介する生福部落は、この大串木野の東部に位し、純農村で、農業を本業とし、林業、養蠶、養雞等を副業として生計を立てゝ居る。この生福部落にある産業組合は信販購利四種兼營で、明治四十五年三月二十三日の設立にかゝり、組合員五百三十五人、出資金一口の金高十八圓で六百八十一口、貯金十二萬千百六十四圓五十九錢八厘を有し、毎年約二萬圓の增加を示してゐる。

——婦人會の設立と組織——

生福産業組合婦人會は、昭和三年九月二十日に設立され、保證責任生福信販購利組合に所屬し、既婚會員五百餘名に依つて組織されてゐる。婦人會員中より、會長、副會長各一名を推薦し、十四支部に分れ、支部は更に幹事二名を選出して、以上幹部三十名の緊密な聯絡に依つて、種々の活潑な支部活動がなされてゐるのである。

春秋二回總會を開き、隨時支部總會を開催して、婦人としての修養、社會奉仕、生活の改善等に就いて實行事項を協定し、又、産業組合、學校、自治産業團體とも良く聯絡を圖り、支部總會には必ず以上各方面の代表が出席して協議が行はれる。

——事業の大要——

基本金並貯金＝昭和九年度末現在の數字に從へば、基本金千三百圓となつてゐるが、これは、婦人會に於て實行しつゝある屑繭販賣の斡旋費、映寫會、浪花節等の興行益金、各種會合の仕出し料理益金、有志の寄附金等に依り造成される。

基本財産は年約百圓を積立てる事とし、屑繭販賣は、春秋二回の組合生繭販賣に合同して、この斡旋を爲し、購買者より、百匁に付一錢二厘内至二錢の手數料を徴する。これは年額六、七十圓の收益となつてゐる。晝食、宴會の料理仕出しは、組合事務所の臺所を借り受け、會員協力して榮養と美味を兼ねた實質的調理を行ふ。新年宴會、或は學校教職員の歡送迎會を始めとし、區域内のあらゆる宴會會合の献立は全部これを請負ひ、其の收益も年額三十圓乃至五十圓に達し、大建築物落成式の如きは、百圓に近い純益をあげてゐる。

貯金總額は一萬一千五百四十九圓（昭和九年度末現在）で、この中、共同貯

金三千八百三十九圓、個人貯金七千七百十圓に分れてゐる。共同貯金は共同作業によつて得た利益金であるが、個人貯金は、各支部を更に若干の貯金組合に分け、各組合に毎月一人拾錢以上の貯金を爲し、この集金は幹事に於てこれを取纒め、支部長に納入し、支部長はこれを産業組合に預金する。なほ毎年三月六日の産業組合記念日には、この貯金額を調査し、首位にあるものは、組合から表彰され、副賞として金若干の賞與を受けてゐる。同一貯金組合が、三ヶ年連續して一等を穫ち得たる時には、特別賞として金貳拾圓を賞與される事となつてゐるから、各貯金組合は、競爭してその奬勵に努めてゐる。

決議實行事項＝○各種會合に於ける時間勵行○産業組合利用部絶對利用○賣藥の使用減少。この結果、組合醫療部の利用が增加してゐる。○家計簿記入。「入るを計つて出ずるを制す」根本原則を一家經濟の上に適用するには、收入と消費とを明かにせねばならぬとの立前から、家計簿の記入を總會で決議したが、

目下全會員中約六割が記帳してゐる。○國家觀念の涵養○部落慰安會○學校教育事業への關心、(學校參觀、優良兒童の表彰、學藝會兒童成績品展覽會の開催を助成し、貧困家庭の補助を爲す。)○處女會、模擬產業組合の援助○農業倉庫利用○臺所改善、(彩光通風に重きを置き、現在會員の八割は實行してゐる。)この結果を各支部の幹事が檢査し、其の家庭に相應せる理想的なるものは、若干の奬勵金を出す。○敬老會、(七十五歲以上を敬老會員とする。)○法要○各種品評會。これには生繭品評會、廢物利用品評會、手藝品々評會などがあり、生繭品評會は春秋二回、廢物利用、手藝品の品評會は三月六日に處女會員と合同で行ひ、會員の學歷を考慮し、中等學校卒業者を一組とし、其の他を一團として審査し、成るべく技術上に於ける入賞割合の均衡を保つ事に努めてゐる。審査員は町立の家政女學校の職員に依囑し、總會の席に於て、審査報告並に指導講話を受ける。○講習會、(屑繭講習會、料理講習會、家計簿記講習

會、簿記の形式は學校に於て謄寫する。)縣支會主催の婦人講習會には、開催毎に幹部二三名の代表を出席せしめて全會員は其の報告を受けてゐる。○視察見學(製糸工場、霧島神社、紡績會社、產組婦人聯盟大會等を視察見學する事とし、本部では秋季一回全會員で行ひ、必要に應じて幹部を派遣してゐるが、支部に於いては隨時これを行つてゐる。)○衞生施設(年四回町衞生組合の清潔檢査に立合ひ、個別訪問を行つて、檢査員の指示の施行を督勵する。)

婦人會の効果＝產業組合婦人會の設立により、區域內に於ける組合精神の旺溢を招來し、組合主義經濟生活の徹底となり、產業組合事業の進展に寄與する處大である。他面に於て婦人相互の修養となり、產業の進展を圖り、青年團、處女會の向上に貢獻する處また甚大である。

高尾野産業組合主婦會　（鹿兒島縣出水郡）

鹿兒島縣出水郡高尾野町は、人口八千八百七人、戸數千六百六十四戸の純農村である。こゝの産業組合は大正六年七月二十八日に設立され、鹿兒島支會、鹿兒島新聞社、産業組合中央會から三回に渉つて表彰されてゐる。

――婦人會の設立と組織――

高尾野産業組合主婦會は、同縣出水郡高尾野町産業組合に所屬し、大正十五年三月六日に創立されたもので、現在一千二百人の會員を擁し、部落毎に支部を設け三十七支部に分れてゐる。

主婦會の經費としては、高尾野産業組合より年六十圓の補助を受け、これを

積立金として、會費は徴收してゐない。

――事業の大要――

貯金＝事業の主なるものは、先づ貯金の奬勵であつて、その種類は、御慶貯金養蠶貯金、非常時貯金の三通りに分れてゐる。御慶貯金は子供の生れた家に支部より十錢、組合より二十錢の祝金を贈り、これを基本として貯金を行はせる方法であり、昭和十一年三月末現在の總額四千二百三十八圓四十五錢に達してゐる。養蠶貯金は、養蠶による利益金を支部會の際に年三回集金して貯蓄し、其の一回の金額は、一人宛三十錢乃至一圓程度である。この貯金額は一萬一千三百七十二圓二十九錢になつてゐる。その他、白米のつかみ出し貯金を、非常時貯金と名づけて行ひ、これは非常時の際でなければ拂出さぬ規定である。

其の他＝第二には時間勵行、第三は家計簿の記入、更に小學校、公民學校の參

觀、月一回のラヂオ體操、他の部落例會の傍聽等を行ふ。その他託兒所を小學校、寺院、並に主婦會の三ヶ所に設置し、農繁期の十五日間、三才より學齡期までの兒童を預り、町及び縣より六圓の補助を受けて、その他は寄附金によるのみで無料で扱つてゐる。猶、託兒所の附屬事業として、年一回乳兒愛護デーを設け、乳兒の發育狀態を調査するのである。

更に日用品や名產椿油を販賣し、賣上總額年二十圓乃至四十圓、內純益四圓乃至六圓をあげてゐる。組合家庭藥も亦これを取扱ひ、一個に付き、組合に一錢、主婦會に二錢の手數料をとつて、これらを事業資金に當てゝゐる。電燈料の徵收も主婦會の手で行ふやうになつてから、一人の滯納者も無いといふ。臺所の改善は、會員の全家庭が實行し、相當の成績をあげてゐる。なほ貧因家庭の兒童には、教科書を買ひ與へる等の經濟的補助をする。

研究方面では、春蒔種の話、胡瓜の作り方等農事に關する研究會を開き、生

活改善の方面では、御飯の炊き方、うどんの作り方、洗濯、染物、かすりの織り方、漬物、廢物利用、屑繭利用等の講習會を開催してゐる。その他、煙草工場、製糸工場、他の部落臺所改善の實地等諸處を見學し、知識の向上を計つてゐる。

更にまた、町の衞生委員と協力して、亂雜になり勝ちな家庭內の整理整頓、掃除の方法等を指導鞭韃し、生活改善の徹底を期してゐる。

敬老會、法要、劍道試合の應援、墓地、神社の掃除等も會員の大切なる仕事の一端である。

なほ特に注意を拂つてゐる點は、時季に於て、時間に於て、事業に於て、役員、會員に於て、家庭に於て、無理の無い婦人會であり度い。次には國民として、婦人として、母として爲になる婦人會であり度い、奧床しくて、上品な、娛樂、慰安、趣味を兼ねた面白い樂しい婦人會であり度い、接待に、會場設

備に物の入らない婦人會、時間的にも物質的にも、儀禮作法の上にも無駄のない婦人會、一人の例外のない實行力の强い婦人會、體系的眼目を定めて毎年少しづつでも進歩する婦人會であり度いといふ事である。

婦人會の効果　＝會合には必ず大麻の禮拜、宮城の遙拜等を行ふため、國家觀念の涵養となり、講習會、講演會の開催によつて、趣味常識の向上を計り、墓地神社の掃除、參詣、命日供養等により信仰生活の振興となり、勤勞の分擔、時間の尊重等によつて家風の改善を期し、其の他、經濟思想の普及、社會共存觀念確立の爲にも高尾野産業組合婦人會は重大な役割を持ち、又効果を擧げてゐるのである。

むすび

以上六婦人會の例を擧げたが、之を以て全國に於ける産業組合婦人會の代表的なものと云ふことは出來ない。だが之に依つて婦人會の設立動機、組織方法事業の大要、その効果等の大體を窺ひ知る事は出來るであらう。

同じく産業組合婦人會と稱されてゐても、全國的に之を見るとその型態は色々である。例へば産業組合の發展と共に、その町村に長く設立されてゐた町村婦人會が、産業組合婦人會と改組されたものがある。又それ等の既設婦人會とは何等關係なく、純粹に産業組合精神の下に新しく組織されたものもある。或ひは又、既設町村婦人會も存在し、産業組合婦人會も出來てゐて、その構成員が同一人である爲め、はつきりした區別を持たず、或場合には産業組合婦人會

として活動し、又或場合には單なる町村婦人會として活動してゐる型態もあるかと思へば名稱だけは産業組合婦人會となつてゐながら、實質的には既設婦人會の活動範圍を一歩も出てゐないものもあり、名稱は單に町村婦人會であつても、内容的には産業組合婦人會の活動を行つてゐる場合も多い。

又、その構成員は、主婦が中心となつてゐるものが多く主婦と娘がまざつてゐるものもある。婦人會の會費は、會員各自が負擔してゐるところもあるが、多くは組合から補助されてゐる。

更に單位組織が充實してゐる所では、府縣の聯合組織があり、鹿兒島、長野廣島等に出來てゐる。

社會狀勢は、益々複雜となるであらうし、更にその中で農村問題は愈々むつかしくなつて行くであらう。この時農村の婦人組織もこれ等周圍の事情から獨立しては決して考へられない。從つて今後の婦人會の組織に當つてはいろ

〳〵な周圍の狀勢を愼重に考慮し、その地方々々に依つて異る事情があらうから、それらに順應して適當に組織することが大切であらう。從つてその事業もそれ〳〵の婦人組織の立場によつて、自由に行はれる事となるであらうが、只今後は、農村婦人自身の地位の向上、並に社會的、經濟的自覺を促すように指導される事が必要である。

卽ち、産業組合事業に對する援助は勿論のこと、農村婦人の農家經濟への參加、保健衞生、母子保護等々に對して、婦人の關心を昂めると同時に、組合自身もこうした婦人會の事業に對して、物質的に、又精神的に絕えざる援助がなされる樣、希望する次第である。

334
489

昭和十一年十月三十一日印刷
昭和十一年十一月五日發行

定價金十錢
（送料共）

發行所　産業組合中央會

著作權所有

編輯兼發行者　東京市麹町區有樂町一ノ九　千石興太郎

印刷者　東京市神田區三崎町二ノ四　竹田佐藏

印刷所　東京市神田區三崎町二ノ四　一匡印刷所

終